

## 東海道十五箇國○中

略

駿河國 大堰川爲遠江駿河之境、時々每逢風雨淵瀨不定、渡則石墮足、河東畔驛曰島田、屢爲水被漂、而居亦不定、然行旅逢水漲以錢卑土人以渡民得其利、

〔東遊行囊抄〕大堰川遠駿ノ堺也、川原ノ間、凡廿餘町、北ヨリ南へ流テ大洋ニ入、海ニ近シ、水上ハ甲信ノ山々ヨリ流出ル、水常ニ濁テ水底ニ石ヲ流ス、其逸キヨド普通ニ超タリ、日夜瀨替少テ常ニ不定、故ニ昔ヨリ船ナシ、南風ニ水増シ、北風ニ水減ズ、東海道第一ノ難所也、略○中常ニハ川越ト云者アリテ、交易ノ人ヲ扶助シ、渡シテ價ヲトル、

〔元亨釋書寺像二十八〕遠州鶴田寺藥師像者、寶字二年三月、一沙門、渡大井川、水底有聲曰、取我取我、沙門穿聲所而得像、高六尺五寸、左右耳朽闕命工補之、其後時々像放光、

〔類聚三代格十六〕太政官符

應造浮橋布施屋并置渡船事

一加増渡船十六艘○中

略

遠江駿河兩國堺大井河四艘元二艘、今加二艘、○中略

右河等、崖岸廣遠、不得造橋、仍增件船○中

略

承和二年六月廿九日

〔更科日記〕田籠の浦は波たかくて、船にて漕めぐる、大井川といふ渡あり、水の世のつねならず、すりこなどを、こくてながしたらんやうに、白き水はやくながれたり、

〔源平盛衰記〕内大臣關東下向附池田宿遊君事

菊川宿打過テ、大井河ヲ渡リツ、宇津ノ山ニモ成リヌ、

〔海道記〕播豆藏の宿をすぎて大堰河をわたる、此川は川中に渡りおほく、又水さかしながれをこ